



会議風景。最初は子どもたちも緊張気味?

ジュニア食品安全委員会を開催しました。

8月22日(水)・23日(木)、
楽しく食の安全を考えるイベントとして、
ホームページ等で公募した小学生などを招き、
「ジュニア食品安全委員会」を3回にわたって開催しました。

HP <http://www.fsc.go.jp/koukan/junior1908/junior-tokyo190822.html>

食育推進の取組として

ジュニア食品安全委員会は、食育推進の取組の一環として、子どもと保護者が食品安全委員会委員との意見交換などを通して楽しく食の安全について学び、理解を深めていただくことを目的に開催したものです。22日には小学生とその保護者の方々が、東京・赤坂にある食品安全委員会を、緊張の中にも興味津々といった表情で訪れました。

難しい話にも懸命に

委員会は「夏休みのいい思い出をつくり、帰ったら食品安全委員会のことをお友達にも広めてください」という見上彪委員長のあいさつに始まり、続いてジュニア食品安全委員会委員としての任命証書が一人ひとりに手渡されました。次に小泉直子委員から、イラスト入りのスライドを使って、食の安全は誰が、どうやって守るのかという内容のお話。ちょっと難しい部分もあったようですが、小学生たちは一所懸命に聴き、熱心にメモをとる姿も。また、水による中毒を例にした「絶対に安全という食べ物はない」という話や、農薬を例にした食品安全委員会のリスク評価活動の説明に、保護者のお母さん、お父さんも熱心に聴き入ります。その後は、食の安全についてのクイズ大会。「ジャガイモによる食中毒の原因物質は?」「食中毒を予防するには?」など6つの問題に三択形式で答えるジュニア委員たち。この頃になると、もう緊張もほぐれ、正解に「やった〜!」と声を上げて喜んだり、不正解に悔しがったり。見事全問正解の1名には、委員長から金メダルが、2位、3位の子どもにはそれぞれ銀メダル、銅メダルが手渡されました。



三択問題で盛り上がったクイズ大会



ジュニア委員の厳しい質問に委員もタジタジ?

楽しく意見交換

続いての意見交換では「食べ物の賞味期限はどうやって決める?」「中国など、日本以外の農薬の問題はどうしているの?」などの大人顔負けの質問に、各委員がわかりやすく答えていきます。中には「空気の重さはどれくらい?」という予想外の質問も出て、うまく説明するのに委員が四苦八苦する場面も。そして、ラストはジュニア委員と委員による記念撮影。つい、固い表情になってしまう委員たちに「もっと笑って!」と何回も声がかかるなど、最後までなごやかに楽しいイベントとなりました。小学生を対象とした企画は委員会にとって初めての試みでしたが、「わかりやすく説明する」というリスクコミュニケーションを模索する上での貴重な機会となりました。今後もこのようなイベントを企画してまいります。

「はい、チーズ」。やっと自然な笑顔で記念写真

